

平成 27 年度独立行政法人日本芸術文化振興会年度計画

平成 27 年 3 月 31 日制定

平成 28 年 3 月 22 日変更

平成 28 年 6 月 30 日変更

(序 文)

独立行政法人通則法（平成十一年法律第百三号）第三十一条の規定により、平成 25 年 3 月 29 日付け 24 受庁文第 1465 号で認可を受けた独立行政法人日本芸術文化振興会中期計画に基づき、平成 27 年度（平成 27 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日まで）の業務運営に関する計画を次のとおり定める。

本年度の事業の実施に当たっては、平成 23 年 3 月に発生した東日本大震災からの復興状況を踏まえて、当振興会に課された使命の達成に努める。

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

1 文化芸術活動に対する援助

(1) 助成金の交付

ア 芸術文化振興基金（以下「基金」という。）の運用収入等を財源とする助成金の交付に関する計画

次に掲げる活動に対して助成金を交付する。

- ① 芸術家及び芸術団体が行う芸術の創造又は普及を図るための活動
 - (a) 現代舞台芸術の公演、伝統芸能の公開その他の活動
 - (b) 美術の展示、映像芸術の普及その他の活動
 - (c) 異なる芸術の分野の芸術家又は芸術に関する団体が共同して行う活動、特定の芸術の分野に分類することが困難な活動等
- ② 地域の文化の振興を目的として行う活動
 - (a) 文化会館、美術館その他の地域の文化施設において行う公演、展示その他の活動
 - (b) 伝統的建造物群、遺跡、民俗芸能その他の文化財を保存し、又は活用する活動
- ③ 文化に関する団体が行う文化の振興又は普及を図るための活動
 - (a) アマチュア、青少年等の文化団体が行う公演、展示その他の活動
 - (b) 文化財である工芸技術又は文化財の保存技術の復元、伝承その他文化財を保存する活動

イ 文化芸術振興費補助金（以下「補助金」という。）を財源とする助成金の交付に関する計画

次に掲げる活動に対して助成金を交付する。

- ① 我が国の舞台芸術の水準を向上させる牽引力となっているトップレベルの芸術団体が国内で実施する舞台芸術の創造活動
- ② 優れた日本映画の製作活動

ウ 助成金交付事務の効率化等

- ① 審査方法等に関する基準を策定し、ホームページ等で公表する。また、審査基準を事前に公表する分野を、舞台芸術分野以外にも拡大する。

- ② 助成対象活動について外部有識者、プログラムディレクター及びプログラムオフィサー等による公演等調査を行うとともに、補助金を財源とする助成金の舞台芸術分野については事後評価を実施し、結果を審査等に活用する。
 - ・ 公演等調査：400 件以上（助成対象活動数）
- ③ 助成対象活動の実施状況の調査のため、職員による会計調査を実施するとともに、プログラムディレクター及びプログラムオフィサーが中心となって、助成対象団体と助成対象活動等について意見交換を実施する。
 - ・ 会計調査：90 件以上（団体数）
- ④ 助成対象活動の公演等調査及び助成対象団体との意見交換等も踏まえ、助成対象分野の現状等について調査分析を行う。
- ⑤ 地域の文化振興等の活動について、応募書類の受付窓口及び推薦に係る業務等について地方公共団体と連携・協力して効率的に実施する。
- ⑥ 事務手続きの合理化を図るため、助成金交付事務に係る助成業務システムについて、応募書類の電子データによる受付等の実施について引き続き検討する。

基金及び補助金の助成事業の交付申請書受理から交付決定までの期間について 35 日以下とする。

エ 基金の管理運用については、安全性に留意するとともに、安定した収益の確保によって継続的な助成が可能となるよう、資金内容及び経済情勢の把握に努め、振興会に設置する資金管理委員会において運用方針、金融商品等の検討を行い、効率的な方法により実施する。

オ 芸術文化振興基金賛助会制度及び社会貢献信託制度の周知を図り、芸術文化振興基金の受入拡充に努める。

また、東日本大震災に伴う被災地の復興支援を目的とした芸術文化復興支援基金による助成事業について、その周知を図りつつ、助成に必要な資金の確保に努めるとともに、助成金の交付方法等について検討する。

カ プログラムディレクターやプログラムオフィサー等を活用した審査・評価の仕組みについて、その成果や課題の検証を行う。

(2) 助成に関する情報等の収集及び提供

ア 文化芸術活動に対する援助の中核的拠点として、広く文化芸術活動に関する情報を収集し、その情報をデータベース化するとともに、ホームページ等を通じて提供する。

- ・ ホームページ目標アクセス件数：129,500 件

イ 振興会が実施する文化芸術活動に関する助成事業を周知するため、ホームページでの情報提供を充実させるとともに、助成対象活動の事例集を作成・配布する。

ウ 助成対象活動の募集に当たっては、芸術関係誌等への広告掲載及びホームページへの情報掲載を行うとともに、地方公共団体及び全国の公立文化施設等へポスター等を配布する。

エ 芸術団体等を対象とした応募相談会を、東京及び大阪並びに他地域で開催する。

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(1) 伝統芸能の公開

ア 伝統芸能の保存と振興を図るため、中期計画の方針に従い、別表 1 のとおり主催公演を実施する。

イ 演目の拡充

- ① 歌舞伎について、平成 17 年度に作成した「復活上演候補演目一覧」の見直しを継

続するとともに、「国立劇場文芸研究会」において、上演候補台本準備稿の作成作業を進める。

また、歌舞伎の新作脚本募集について、周知及び応募受付を行う。なお、選考及び表彰は平成 28 年度に行う予定。

- ② 歌舞伎に続く演劇の伝統を継承する芸能として、新派の上演を行う。
- ③ 文楽について、新作の上演を行う。また、廃絶演目の復曲作業を進めるとともに、上演に向けた準備作業を行う。
- ④ 大衆芸能の新作脚本募集について、「落語」の作品を募集し、選考及び表彰を行う。
- ⑤ 能楽について、廃絶曲を復曲上演する。また、国立能楽堂及び他の能楽堂等で上演された、新作・復曲作品の再演を行う。
- ⑥ 組踊等沖縄伝統芸能について、上演機会が少ない優れた演目や、古典の様式を踏まえた新作組踊の上演を行う。

(2) 現代舞台芸術の公演

現代舞台芸術の振興と普及を図るため、中期計画の方針に従い、別表 2 のとおり主催公演を実施する。

(3) 青少年等を対象とした公演

ア 伝統芸能を次世代に伝え、新たな観客層の育成を図るため、主に青少年を対象とした公演を別表 3 のとおり実施するほか、社会人や親子等を対象とした入門企画を別表 4 のとおり実施する。実施に当たっては、各公演等の連携協力を強化するなど、その充実を図る。

イ 青少年等が現代舞台芸術に触れる機会を確保し、新たな観客層の育成と現代舞台芸術の普及を図るため、主に青少年を対象とした公演を別表 3 のとおり実施し、親子でも楽しめるよう工夫する。実施に当たっては、各公演の連携協力を強化するなど、その充実を図る。

(4) 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演の実施に際しての留意事項等

ア 外部専門家等の意見を聴取するとともに、観客へのアンケート調査を適宜実施し、公演事業に反映させる。

イ 我が国における伝統芸能の保存振興又は現代舞台芸術の振興普及の中核的拠点として、中期計画の方針に従い、次のとおり公演等を実施する。

- ① 共催、受託などによる公演等を別表 5 のとおり実施する。
- ② 各地の文化施設等における公演等を別表 6 のとおり実施する。
- ③ 国際文化交流の進展に寄与する公演等を別表 7 のとおり実施する。

(5) 快適な観劇環境の形成

ア 観客にとって快適で安全な環境を提供するため、観客の要望等を踏まえ、売店・レストラン等におけるサービスの充実や観劇時のマナーの呼びかけを行うとともに、ロビー等観客用設備の適切な維持管理を行う。

また、外国人利用者に対し、劇場内外の案内表示の整備等サービスの充実に努める。

イ 入場券販売において、インターネットやスマートフォンなど、観客の利用形態に応じた多様な購入方法を提供する。

ウ 公演内容等の理解を促進するため、公演内容に応じて、解説書等の作成並びに音声同時解説及び字幕表示を行う。また、鑑賞団体等に対し、公演内容の事前説明会や施設見学会を行う。

エ 観客へのアンケート調査等の活用により、観客等の要望、利用実態等を把握し、サービスの向上に活用する。

なお、ホームページや各劇場に設置するご意見箱等を通じて寄せられる意見・要望については、一元的に管理し、対応の迅速化と職員間の情報共有の強化を図るとともに、サービス改善に資するよう、その内容を集計・分析する。

(6) 広報・営業活動の充実

ア 効果的な広報・営業活動の展開

① 公演内容に応じて、記者会見・取材等によるマスメディアを通じた広報や、インターネット広告等の多様な媒体を活用して、広報活動を効果的に実施する。

② 振興会各種事業に関する広報の充実に努め、ホームページ等を活用して随時最新の情報を提供する。

ホームページについて、各種情報の早期掲載及び内容の充実に努めるとともに、アクセス動向等を分析して利用状況を把握する。引き続き英語版ホームページの内容を見直し、外国人に対する情報発信を強化する。メールマガジンにより、公演等の情報を随時配信する。

また、国立劇場開場 50 周年に向け、特別ポスター・チラシ、ホームページ上の特設サイト等の広報活動について検討を進める。

- ・ 日本芸術文化振興会ホームページ目標アクセス件数：2,400,000 件
- ・ 国立劇場おきなわホームページ目標アクセス件数：288,000 件
- ・ 新国立劇場ホームページ目標アクセス件数：3,650,000 件

③ 振興会各種事業に関する広報誌を次のとおり発行する。

- ・ 日本芸術文化振興会ニュース（毎月発行）
- ・ 国立劇場おきなわ情報誌「華風」（毎月発行）
- ・ 新国立劇場情報誌「ジ・アトレ」（毎月発行）

④ 観劇を促進するため、観客の需要を踏まえ、シーズンシートやセット券等を企画・販売するほか、各種キャンペーンを企画・実施する。

⑤ 団体観劇を促進するため、公演内容に応じた営業活動を展開するとともに、旅行代理店・ホテル等との連携を強化する。

また、法人を対象とする事前登録制の団体チケット販売システムの運用を開始し、利用団体の募集を行うとともに、サービスの提供を開始する。

⑥ 若年層の観客増を図るため、大学等を対象とする会員制度「国立劇場キャンパスメンバーズ」を運営し、サービスを提供する。また、引き続き会員校の増加に努めるとともに、利用者の要望等を踏まえ、サービスの拡充を図る。

⑦ 全職員が集客に対する意識を高め、知人や関係するコミュニティー等に対して積極的に団体観劇を勧誘する「おすすめキャンペーン」を引き続き実施する。

イ 個人を対象とする会員組織の会員に対し、観劇の促進のため、会報による情報提供を定期的に行うとともに、入場券の会員先行販売や会員向けイベント等の各種サービスを提供する。また、引き続きアンケート調査の結果や劇場モニターの意見内容について検討し、会員向けサービスの充実に活用する。

新規会員について、会員向けサービスの周知により、引き続き増加に努める。

① あぜくら会（本館・演芸場・能楽堂）

- ・ 会報「あぜくら」（毎月発行）
- ・ 会員向けイベント：年 8 回程度
- ・ 目標会員数：18,000 人

② 国立文楽劇場友の会

- ・ 「国立文楽劇場友の会会報」（年 6 回発行）

- ・ 会員向けイベント：年6回程度
 - ・ 目標会員数：7,900人
 - ③ 国立劇場おきなわ友の会
 - ・ 「国立劇場おきなわ友の会会報」(年4回発行)
 - ・ 会員向けイベント：年3回程度
 - ・ 目標会員数：2,200人
 - ④ クラブ・ジ・アトレ(新国立劇場)
 - ・ 会報「ジ・アトレ」(毎月発行)
 - ・ 会員向けイベント：年11回程度
 - ・ 目標会員数：9,500人
- (7) 劇場施設の使用効率の向上等
- ア 中期計画の方針に従い、劇場施設の使用効率の向上を図るとともに、伝統芸能の保存振興又は現代舞台芸術の振興普及等を目的とする事業に対し、劇場施設を次のとおり貸与する。

区分	貸与日数	使用効率
本館大劇場	72日	79%
本館小劇場	142日	74%
演芸場	103日	89%
能楽堂本舞台	180日	70%
文楽劇場	97日	68%
文楽劇場小ホール	111日	58%
国立劇場おきなわ大劇場	69日	44%
国立劇場おきなわ小劇場	119日	64%
新国立劇場オペラ劇場	36日	46%
新国立劇場中劇場	209日	82%
新国立劇場小劇場	112日	75%
(合計)	1,250日	69%

※ 使用効率は、使用可能日数のうち鑑賞機会の提供(主催公演、主催公演関連企画、貸し劇場公演)を行った日数の割合。

- イ 各施設の利用促進を図るため、次の取組を行う。
- ① 各施設の設備等の概要、利用方法及び空き日等の情報をホームページへ掲載する。
 - ② パンフレットやダイレクトメールにより広報を行う。
 - ③ 利用希望者に対し適宜説明・見学等の機会を設け、劇場利用者の増加に取り組む。
 - ④ 利用者に対しアンケート調査を実施し、その調査結果を踏まえ、サービスの充実を図る。
 - ⑤ 他の劇場施設等の利用方法、利用料金等の調査を引き続き行うとともに、調査結果を検討し活用する。

3 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

(1) 伝統芸能の伝承者の養成

ア 中期計画の方針に従い、次のとおり養成研修を実施する。

- ① 歌舞伎俳優・音楽
(歌舞伎俳優)

- (a) 歌舞伎俳優第 22 期生（研修期間 2 年、9 名）の 1 年目の養成を行う。
 - (歌舞伎音楽)
 - (b) 竹本第 22 期生（研修期間 2 年、3 名）の 1 年目の養成を行う。
 - (c) 鳴物第 15 期生（研修期間 2 年、1 名）の 1 年目の養成を行う。
 - (d) 長唄第 6 期生（研修期間 3 年、1 名）の 3 年目の養成を行い、修了を予定。
 - (e) 長唄第 7 期生の募集について検討を行い、実施する予定。
 - ② 大衆芸能
 - (a) 寄席囃子第 13 期生（研修期間 2 年、6 名）の 2 年目の養成を行い、修了を予定。
 - (b) 寄席囃子第 14 期生の募集について検討を行い、実施する予定。
 - ③ 能楽（囃子・狂言：研修期間 6 年）
 - (a) 第 9 期生（3 名）の 2 年目の養成を行う。
 - ④ 文楽（大夫、三味線、人形：研修期間 2 年）
 - (a) 第 27 期生（4 名）の 1 年目の養成を行う。
 - ⑤ 組踊（立方・地方：研修期間 3 年）
 - (a) 第 4 期生（10 名）の 2 年目の養成を行う。
- イ 研修修了生を中心に伝承者の技芸の向上を図るため、次のとおり既成者研修を実施する。
- ① 既成者研修発表会を次のとおり実施する。
 - (a) 歌舞伎俳優既成者研修発表会（2 公演実施）
 - ・ 歌舞伎会・稚魚の会合同公演（本館小劇場）8 月 14 日～17 日、8 回
 - ・ 上方歌舞伎会（文楽劇場）8 月 22 日～23 日、4 回
 - (b) 歌舞伎音楽既成者研修発表会（1 公演実施）
 - ・ 音の会（本館小劇場）8 月 8 日～9 日、2 回
 - (c) 能楽既成者研修発表会（3 公演実施）
 - ・ 若手能（京都：観世会館）6 月 27 日、1 回
 - ・ 若手能（大阪：大槻能楽堂）1 月 30 日、1 回
 - ・ 若手能（東京：能楽堂）2 月 6 日、1 回
 - (d) 文楽既成者研修発表会（4 公演実施）
 - ・ 文楽若手会（文楽劇場）6 月 20 日～21 日、2 回
 - ・ 文楽若手会（本館小劇場）6 月 27 日～28 日、2 回
 - ・ 若手素浄瑠璃の会（文楽劇場小ホール）8 月 28 日、1 回
 - ・ 若手素浄瑠璃の会（文楽劇場小ホール）3 月 4 日、1 回
 - (e) 組踊既成者研修発表会（1 公演実施）
 - ・ 若手伝承者発表会（国立劇場おきなわ大劇場）7 月 4 日、1 回
 - ② 能楽について、研究課程を開講し、研修機会の拡大と伝承者間の交流を促進する。
- ウ 実施に当たっては、各分野の充足状況等を把握するとともに、研修修了後の就業機会確保のための関係団体等との協議、外部専門家等からの伝統芸能の伝承状況等の意見等を踏まえ、養成すべき分野、人数、研修期間等を定めた上で計画的に実施する。
- また、研修修了生の動向把握等により成果の検証を行い、伝承者の充実のため、対象とする分野、人数等について不断の見直しを行う。
- (2) 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修
- ア 中期計画の方針に従い、次のとおり研修を実施する。
- ① オペラ研修（研修期間 3 年）
 - (a) 第 16 期生（5 名）の 3 年目の研修を行い、修了を予定。

- (b) 第17期生（5名）の2年目の研修を行う。
 - (c) 第18期生（5名）の1年目の研修を行う。
 - (d) 第19期生（5名程度）の募集を行う。
 - (e) 研修発表会等（3公演実施）
 - ・ 試演会（新国立劇場中劇場）7月18日～19日、2回
 - ・ 研修所公演（新国立劇場中劇場）2月19日～21日、3回
 - ・ 歌唱コンサート（新国立劇場中劇場）11月17日、1回
 - (f) 修了後の国際的なキャリア形成を目標とし、9月に海外研修を行う。
- ② バレエ研修（研修期間2年）
- (a) 第11期生（5名）の2年目の研修を行い、修了を予定。
 - (b) 第12期生（6名）の1年目の研修を行う。
 - (c) 第13期生（6名程度）の募集を行う。
 - (d) バレエ予科生について、次のとおり研修及び募集を行う。
 - ・ 第6期生（2名）の2年目の研修を行う。
 - ・ 第7期生（5名）の1年目の研修を行う。
 - ・ 第8期生（若干名）の募集を行う。
 - (e) 研修発表会等（3公演実施）
 - ・ 発表公演（新国立劇場中劇場）11月21日～22日、2回
 - ・ 修了公演（新国立劇場中劇場）2月27日～28日、2回
 - ・ 「バレエ・アステラス★2015」（新国立劇場オペラ劇場）7月19日、1回

③ 演劇研修（研修期間3年）

- (a) 第9期生（9名）の3年目の研修を行い、修了を予定。
- (b) 第10期生（8名）の2年目の研修を行う。
- (c) 第11期生（14名）の1年目の研修を行う。
- (d) 第12期生（12名程度）の募集を行う。
- (e) 研修発表会等（3公演実施）
 - ・ 試演会（新国立劇場小劇場）10月23日～28日、6回（予定）
 - ・ 修了公演（新国立劇場小劇場）1月8日～13日、6回（予定）
 - ・ 朗読劇「少年口伝隊一九四五」（新国立劇場小劇場）8月15日～16日、3回（予定）

イ 実施に当たっては、民間団体の役割を踏まえつつ、グローバルな視点に立った体系的なカリキュラム等により、安定的、継続的に実演家の育成を行うよう留意する。

また、外部専門家等の意見を聴取し、成果の検証を行い、成果が不十分なものについては廃止を含め、長期的視点を踏まえて対象とする分野、人数などについて不断の見直しを行う。

(3) 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修の実施に当たっての留意事項

ア 養成研修事業についての国民の関心を喚起するため、研修修了者の活動状況等をホームページ等で紹介するなど、事業の周知に努める。

また、研修生募集について、ホームページでの告知、研修紹介DVDの活用、研修見学会の実施等により周知し、応募者の増加を図る。

イ 研修生等が実演経験を積む機会の充実を図るとともに、伝統芸能及び現代舞台芸術の振興・普及のため、研修生及び研修修了生によるワークショップ等を全国の文化施設、学校等と協力して実施する。

- また、外部公演への出演依頼に積極的に応じて、文化普及活動への参画に努める。
- ウ 伝統芸能・現代舞台芸術双方の研修生を対象とした特別合同講義を実施して、両分野の相互交流を図る。
- エ 国の文化振興施策との連携に留意しつつ、国立劇場、新国立劇場等の人材や施設を活用して、公演制作者や舞台技術者等に対する実地研修の受入れや外部研修への協力等に努める。

4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

(1) 伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

- ア 中期計画の方針に従い、伝統芸能に関する調査研究を次のとおり実施する。
- ① 歌舞伎、文楽及び組踊等沖縄伝統芸能公演の実施に当たり、過去の公演記録、演出等を調査した上演資料集を作成し、上演内容の理解促進に活用する。
 - ② 日本各地の歌舞伎・文楽を主とした演劇興行に関する記録及び組踊等沖縄伝統芸能の上演に関する記録の調査研究を行い、次のとおり刊行等を行う。
 - (a) 「近代歌舞伎年表」名古屋篇第十巻の刊行及び第十一巻の刊行準備
 - (b) 「義太夫年表 昭和篇」第三巻の刊行及び第四巻の刊行準備
 - ③ 伝統芸能に関する古文献等について調査研究を行い、次のとおり復刻・刊行等を行う。
 - (a) 歌舞伎資料選書・12「芝居見たまま 明治篇」第四巻の刊行
 - (b) 未翻刻戯曲集第二十二巻の刊行
 - (c) 正本写合巻集（2冊）の刊行
 - (d) 「国立能楽堂調査研究」（10）の刊行
- イ 中期計画の方針に従い、伝統芸能に関する資料の収集及び活用を次のとおり実施する。
- ① 伝統芸能関係図書、歌舞伎錦絵等博物資料等の収集及び分類整理を行い、閲覧に供する。

各館においては、伝統芸能全般に関する図書・資料のほか、主として各館で公開する分野に関する図書・資料を収集する。

図書については、開架図書を充実させるとともに、ホームページで蔵書検索サービスを提供するなど、一般の利用の促進に努める。
 - ② 収集した資料等を活用し、次のとおり刊行を行う。また、博物館施設等に対し、収集した資料を貸与する。
 - (a) 特別展示図録の刊行（能楽堂）
 - (b) 英文演目解説「The Guide to Noh of National Noh Theatre」（5）刊行（能楽堂）
 - ③ 収集した資料のデータベース化やデジタルコンテンツの充実を図り、インターネットにより公開する。
 - (a) 図書、資料及び公演記録等について、引き続き次の情報のデータベース化を行う。
 - ・ 図書（本館筋書）
 - ・ 錦絵
 - ・ ブロマイド
 - ・ 公演記録情報（上演情報、公演記録写真、扮装図鑑）
 - (b) デジタルコンテンツを次のとおり作成する。
 - ・ 文化デジタルライブラリー
舞台芸術教材「文楽編」

- (c) 文化デジタルライブラリーホームページ目標アクセス件数：455,000件
- ウ 収集した資料等を別表8のとおり展示公開する。実施に当たっては、来場者の利便性の向上と広報活動の強化を図る。
- (2) 現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用
 - ア 中期計画の方針に従い、新国立劇場で上演する現代舞台芸術の主催公演等に関し、上演作品等についての資料調査を実施する。
 - ① 戯曲に関する調査を行い、新国立劇場での上演に活用するとともに、調査結果を活用して講演会やリーディング公演を実施する。
 - ② 海外の主要劇場等の情報を引き続き収集して、公演の充実等に活用するとともに、公演プログラムやホームページ等において公開する。
 - ③ 主催公演の公演記録映像、写真、舞台演出・美術資料などについて、引き続き、整理・保存を行う。
 - イ 現代舞台芸術に関する図書、資料等の収集及び分類整理を行い、閲覧に供するとともに、他の劇場施設等への貸与を行う。
 - ① 情報センターについて、閲覧室の開架図書を充実させるとともに、ホームページで所蔵資料検索サービスを提供するなど、一般の利用の促進に努める。
 - ② 図書資料管理システムについて、引き続き図書等の情報のデータベース化を行う。
 - ③ 所蔵品管理システムについて、引き続き過去の寄贈資料の情報のデータベース化を行う。
 - ウ 収集した資料等を、別表8のとおり展示公開する。実施に当たっては、来場者の利便性の向上と広報活動の強化を図る。
- (3) 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する公演記録の作成・活用、普及活動の実施
 - ア 主催公演を中心に演技・演出等の記録を録音・録画・写真等により適切に作成・保存し、閲覧・視聴に供する。
 - イ 公演記録映像については、鑑賞会等を開催するとともに、講座・レクチャー等で活用する。また、必要な著作権処理を行った上で、外部制作会社等と連携し、一層の有効活用を図る。
 - ウ 公開講座等、普及活動の実施
 - ① 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する公開講座等を別表9のとおり実施する。実施に当たっては、広報活動を十分に行うとともに、参加者に適宜アンケート調査を実施し、回答者の80%以上から有意義であったと回答されるよう内容等の充実を努める。
 - ② 公演の実施にあわせた関連講座、展示等を適宜実施し、内容に応じてホームページ等で公開する。
 - ③ 教職員の伝統芸能への理解を深め、教育を受ける児童・生徒に対して伝統芸能の普及促進を図る観点から、教員免許更新制における免許状更新講習を、文部科学大臣の認定を受けて実施する。
 - ④ 組踊等沖縄伝統芸能への理解を促進し、より一層の普及を図るため、学校等に対して、解説DVDの貸出し及びパンフレット等の提供を行う。
 - ⑤ 「現代舞台芸術入門オンラインツアー」等のオンラインコンテンツを充実させ、現代舞台芸術の魅力をより多面的に、幅広い層に向けて発信する。

II 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 業務運営の効率化を進めるため、次の措置を講ずる。

(1) 効率化に関する取組

ア 情報システムの活用

- ① 業務システムの安定稼働を引き続き図ることにより、各業務の効率的な運用を行う。財務会計等システムと文書管理システムの更新に向けて最適化を図り、より効率的な運用を目指す。
- ② 保有する情報を安全に管理するため、次期グループウェアやネットワーク環境等の情報基盤の調査・分析を行うとともに、適切な情報セキュリティ対策を推進する。
- ③ ファイルサーバーに保管されているデータ情報の調査・分析結果を基に、データの運用手順を整理し、増加するデータ情報を適正に管理・運用する。

イ 事務手続きの簡素化

館内LANの活用、各種マニュアルの整備等により事務手続きの効率化を図るとともに、内部統制の強化を図りつつ決裁事務の簡素化を進める。

ウ 契約の適正化

- ① 引き続き「調達等合理化計画」に基づき契約の適正化を図り、原則として一般競争入札によることとする。また、その取組状況をホームページで公表する。
- ② 契約監視委員会を引き続き設置して、定期的に契約の点検を行い、その結果を踏まえた見直しを実施する。
- ③ 入札事務の効率化と競争参加者の利便性向上のため、電子入札を一部の案件で実施する。

エ 省エネルギー、リサイクルの推進

- ① 特定地球温暖化対策事業所として、地球温暖化対策計画書等を作成し二酸化炭素(CO₂)の削減を推進する。
- ② 夏季軽装等の推進による、事務所部分を中心とした光熱水量の節減を図る。
- ③ 廃棄物の減量化を図るため、両面コピー及び分別収集を徹底する。
- ④ 情報システムの利用促進により、ペーパーレス化を進める。
- ⑤ グリーン購入法に基づく環境配慮物品等の調達を行い省エネルギー、リサイクルを促進する。

(2) 給与水準の適正化

役職員の給与について、国家公務員の給与制度に関する総合的見直し等の動向を踏まえ、規定の整備等必要な措置を講ずる。また、給与水準の適正化に関する検証結果や取組状況について公表する。

(3) 組織機構の在り方の検討

業務運営の効率化等の進捗状況や過去の組織改正の効果を踏まえ、引き続き人員配置など組織機構の在り方について検討し、必要な措置を講ずる。

(4) 保有資産の有効利用

施設の有効利用のため、引き続き適切な管理・運用に努めるとともに、各劇場施設の使用効率の向上及び利用者の増加に努める。

また、金融資産については、経済状況を踏まえつつ、適切な管理・運用に努める。

(5) 内部統制の充実・強化

ア 平成26年度の事業の実施結果について、担当各部が自己点検評価を行うとともに、各分野の外部専門家からの意見聴取を行う。

イ 上記の自己点検評価をもとに、外部の有識者、各分野の専門家等で構成する評価委員会において、業務の実績に関する評価を行う。評価結果については、公表するとともに、組織の改善、事業の見直し、事務の改善等に反映させる。

ウ 理事長がリーダーシップを発揮できる環境を整備するとともに、監事の機能を強化す

る組織体制を整備して内部統制の充実・強化を図る。

エ 国民が最新の情報を円滑に得られるよう、ホームページにおける情報アクセスを容易にし、情報開示を推進する。情報開示に当たっては、国民の理解が得られるよう、分かりやすく説明する意識を徹底する。

また、保有する情報については、法令等に基づき適切に情報の開示を行うとともに、情報セキュリティ対策についての意識の向上を図るため、各職員の自己点検の実施に加え、専門家による情報セキュリティ研修を実施する。

III 予算

- 1 予算 別紙1のとおり
- 2 収支計画 別紙2のとおり
- 3 資金計画 別紙3のとおり

IV 短期借入金の限度額

運営費交付金の受入の遅延が生じた場合、短期借入金の限度額（10億円）の範囲内で借入れを行う。

V その他主務省令で定める業務運営に関する事項

1 人事に関する計画

- (1) 職員の計画的、適正な配置を図るとともに、外部機関との人事交流を適切に進め、多様な人材を確保・育成する。
- (2) 事務能率の維持、増進を図るため、各種研修を行い、各職員の能力開発、専門性の確保及び意識改革を行うとともに、適切な労務管理を実施する。
 - ア 接遇、公演業務等の内部研修を実施する。
 - イ 会計、人事関係業務等の外部研修を活用する。
 - ウ 職員の心身の健康の保持増進を図る。

2 施設・設備に関する計画

- (1) 施設・設備の老朽化への対応、劇場利用者の安全確保及び利便性の向上等のため、長期的な視野に立った整備計画を策定し、別紙4のとおり施設・設備に関する計画に沿った整備を推進するとともに、舞台設備等の機能維持に必要なメンテナンスを実施する。

国立劇場本館・演芸場等隼町地区の施設・設備（以下「国立劇場等」という。）の改修については、平成29年度までに予定している実施計画策定に向けた検討を開始する。作業に当たっては、国立劇場等大規模改修基本計画を踏まえ、その方針を基本設計及び実施設計の策定につなげるため、具体的な調査研究を行う。また、今後の整備手法の検討のため、大規模改修事業のPFI導入可能性について調査を行う。

なお、国立劇場等大規模改修に向けた検討及び調査研究については、評議員会、国立劇場等大規模改修懇談会等における外部有識者の意見を踏まえながら、国立劇場等大規模改修推進委員会が中心となって実施する。

- (2) 快適で安全な観劇環境を提供するため、劇場利用者及び外部専門家の意見等を踏まえ、整備内容の検討を行い、可能なものは速やかに実施する。その際、国立劇場等については、今後の改修計画との関連に留意する。

3 その他振興会の業務の運営に関し必要な事項

国立劇場おきなわの管理運営については、沖縄芸能・文化の独自性とその伝統を活かし、地方自治体等地域の協力を得るため、公益財団法人国立劇場おきなわ運営財団に委託して行う。

また、新国立劇場の管理運営についても、芸術家、芸術団体等の創意、工夫を取り入れるとともに民間等の協力を得るため、公益財団法人新国立劇場運営財団に委託して行う。

なお、委託に当たっては、自己収入の確保等の方策により収支構造の改善等に計画的に取り組むとともに、契約内容の検証を行い、更に効率化を図る。

[別表 1] 伝統芸能の公開に関する計画

1 歌舞伎・新派（目標入場者数：226,500人）／26年度計画目標 225,000人

公演名	劇場	期間	回数	日数	目標入場者数
10月歌舞伎公演	本館大劇場	10月3日～27日	25回	25日	21,500人
11月歌舞伎公演	〃	11月3日～26日	24回	24日	20,000人
12月歌舞伎公演	〃	12月3日～26日	24回	24日	23,500人
1月歌舞伎公演	〃	1月3日～27日	25回	25日	28,000人
3月新派公演	〃	3月3日～27日	25回	25日	19,000人
本公演（5公演）小計			123回	123日	112,000人
6月歌舞伎鑑賞教室 解説「歌舞伎のみかた」、「壺坂壺駈記」	本館大劇場	6月2日～24日	46回	23日	53,100人
7月歌舞伎鑑賞教室 解説「歌舞伎のみかた」、「義経千本桜」	〃	7月3日～24日	44回	22日	61,400人
鑑賞教室（2公演）小計			90回	45日	114,500人
歌舞伎・新派（7公演）合計			213回	168日	226,500人

2 文楽（目標入場者数：175,900人）／26年度計画目標 178,700人

公演名	劇場	期間	回数	日数	目標入場者数
5月文楽公演「五條橋」「新版歌祭文」「一谷嫩軍記」／「祇園祭礼信仰記」「桂川連理柵」	本館小劇場	5月9日～25日	34回	17日	17,200人
9月文楽公演	〃	9月5日～21日	34回	17日	17,500人
12月文楽公演	〃	12月2日～14日	13回	13日	6,700人
2月文楽公演	〃	2月6日～22日	51回	17日	22,300人
12月文楽鑑賞教室	〃	12月2日～14日	24回	13日	12,600人
本館（5公演）小計			156回	77日	76,300人
4月文楽公演「靉猿」「一谷嫩軍記」「卅三間堂棟由来」／「絵本太功記」「天網島時雨炬燵」「伊達娘恋緋鹿子」	文楽劇場	4月4日～26日	44回	22日	18,900人
夏休み文楽特別公演	〃	7月18日～8月3日	51回	17日	21,600人
錦秋文楽公演	〃	10月31日～11月23日	46回	23日	19,100人
初春文楽公演	〃	1月3日～26日	46回	23日	21,700人
6月文楽鑑賞教室「五条橋」、解説「文楽へようこそ」、「曾根崎心中」	〃	6月5日～18日	28回	14日	18,300人
文楽劇場（5公演）小計			215回	99日	99,600人
文楽（10公演）合計			371回	176日	175,900人

3 舞踊・邦楽・雅楽・声明・民俗芸能等（目標入場者数：17,600人）／26年度計画目標 18,580人

公演名	劇場	期間	回数	日数	目標入場者数
5月舞踊公演「能狂言の舞踊」	本館大劇場	5月23日	1回	1日	980人
8月舞踊公演「花形・名作舞踊鑑賞会（仮）」	本館小劇場	8月29日	1回	1日	340人
11月舞踊公演「舞の会—京阪の座敷舞—」	〃	11月21日	2回	1日	1,020人
3月舞踊公演「素踊りの会」	〃	3月19日～20日	2回	2日	760人
10月邦楽公演「邦楽名曲鑑賞会（仮）」	〃	10月10日	1回	1日	380人

10月邦楽公演「文楽素浄瑠璃の会」	〃	10月24日	1回	1日	560人
12月邦楽公演「谷崎潤一郎 -音曲世界- (仮)」	〃	12月19日	1回	1日	400人
1月邦楽公演「邦楽鑑賞会 -長唄の会- -三曲の会-」	〃	1月16日～17日	2回	2日	1,010人
11月雅楽公演「大曲 盤渉参軍 (仮)」	〃	11月7日	2回	1日	1,000人
2月雅楽公演「舞楽」	本館大劇場	2月27日	1回	1日	1,440人
2月声明公演「日蓮宗の声明 (仮)」	〃	2月11日	1回	1日	1,300人
4月民俗芸能公演「東日本大震災復興支援 東北の 芸能VI ～みちのくのオニ～」	本館小劇場	4月11日	1回	1日	450人
6月民俗芸能公演「石見 大元神楽」	〃	6月20日	2回	1日	950人
1月民俗芸能公演「沖縄・宮古・八重山の唄と踊り (仮)」	〃	1月23日～24日	2回	2日	910人
4月舞踊・邦楽公演「明日をになう新進の舞踊・邦 楽鑑賞会」、特別公演「舞踊・邦楽鑑賞会」	〃	4月17日～18日	2回	2日	820人
6月 第3回伝統芸能の魅力「声明を楽しむ」/「邦 楽を楽しむ」	〃	6月6日	2回	1日	900人
6月 第4回伝統芸能の魅力「雅楽を楽しむ」/「日 本舞踊を楽しむ」	〃	6月13日	2回	1日	940人
9月特別企画公演「日本の太鼓」	本館大劇場	9月26日	1回	1日	1,150人
本館 (18公演) 小計			27回	22日	15,310人
10月舞踊公演	文楽劇場	10月17日	2回	1日	800人
7月邦楽公演「文楽素浄瑠璃の会」	〃	7月4日	1回	1日	450人
5月舞踊・邦楽公演「新進と花形による舞踊・邦楽 鑑賞会」	〃	5月9日	1回	1日	450人
9月特別企画公演「風流の芸能」	〃	9月12日	1回	1日	590人
文楽劇場 (4公演) 小計			5回	4日	2,290人
舞踊・邦楽等 (22公演) 合計			32回	26日	17,600人

4 大衆芸能 (目標入場者数: 52,000人) / 26年度計画目標 52,760人

公演名	劇場	期間	回数	日数	目標 入場者数
定席公演 (上席・中席) (22公演)	演芸場	毎月実施 (5月・1月は中席のみ)	241回	219日	35,200人
若手新人公演 (花形演芸会) (12公演)	〃	毎月実施	12回	12日	3,300人
新春名人会	〃	1月2日～7日	8回	6日	2,300人
国立名人会 (11公演)	〃	毎月実施 (1月を除く)	11回	11日	3,080人
特別企画公演 (10公演)	〃	毎月実施 (5月・1月を除く)	14回	14日	3,850人
演芸場 (56公演) 小計			286回	262日	47,730人
浪曲名人会	文楽劇場	11月28日	1回	1日	680人
浪曲録声会	文楽劇場 小ホール	5月30日	2回	1日	290人
上方演芸特選会 (6公演)	〃	奇数月に実施	24回	24日	3,300人
文楽劇場 (8公演) 小計			27回	26日	4,270人
大衆芸能 (64公演) 合計			313回	288日	52,000人

5 能楽（目標入場者数：36,140人）／26年度計画目標 35,550人

区分	公演名	期間	回数	日数	目標入場者数
定例公演	狂言「二千石」、能「三山」	4月17日	1回	1日	580人
	狂言「見物左衛門花見」、能「嵐山」、間狂言「猿賀」	4月22日	1回	1日	580人
	狂言「仁王」、能「杜若」	5月15日	1回	1日	580人
	狂言「名取川」、能「隅田川」	5月27日	1回	1日	580人
	狂言「若和布」、能「融酌之舞」	6月3日	1回	1日	580人
	狂言「入間川」、能「富士太鼓」	6月19日	1回	1日	580人
	狂言「月見座頭」、能「水無月祓古本による」	7月3日	1回	1日	580人
	狂言「佐渡狐」、能「自然居士」	7月29日	1回	1日	580人
	狂言「舎弟」、能「江口」	9月2日	1回	1日	580人
	狂言「蚊相撲」、能「鶴」	9月16日	1回	1日	580人
	狂言「素袍落」、能「清経替之型」	10月7日	1回	1日	580人
	演出の様々な形 狂言「鎌腹」、能「松風身留」	10月16日	1回	1日	580人
	演出の様々な形 狂言「鎌腹」、能「松風戯之舞」	11月6日	1回	1日	580人
	狂言「鏡男」、能「紅葉狩」	11月18日	1回	1日	580人
	狂言「とちはくれ」、能「絃上」	12月2日	1回	1日	580人
	演出の様々な形 狂言「鎌腹」、能「松風難返・見留」	12月18日	1回	1日	580人
	能「金札」、狂言「鴈雁金」	1月6日	1回	1日	580人
	狂言「岡太夫」、能「蟻通」	1月15日	1回	1日	580人
	狂言「柿山伏」、能「誓願寺」	3月9日	1回	1日	580人
	狂言「附子」、能「小塩」	3月18日	1回	1日	580人
普及公演	解説、狂言「長光」、能「忠度」	4月11日	1回	1日	610人
	解説、狂言「真奪」、能「千手」	5月9日	1回	1日	610人
	解説、狂言「饅頭」、能「実盛」	6月13日	1回	1日	610人
	解説、狂言「簸屑」、能「大瓶狸々」	7月11日	1回	1日	610人
	解説、狂言「貰賀」、能「女郎花」	9月12日	1回	1日	610人
	解説、狂言「咲嘩」、能「夕顔山端之出・合掌留」	10月10日	1回	1日	610人
	解説、狂言「栗焼」、能「小鍛冶白頭」	11月14日	1回	1日	610人
	解説、狂言「鶏簞古式」、能「殺生石白頭」	12月12日	1回	1日	610人
	解説、狂言「麻生」、能「仲光愁傷之舞」	1月9日	1回	1日	610人
	解説、狂言「空腕」、能「田村」	3月12日	1回	1日	610人
企画公演	【狂言の会】 狂言「墨塗」、狂言「野老」、狂言「髭櫓」	4月29日	1回	1日	590人
	【企画公演】寺社と能 おはなし、多武峰式「翁」、狂言「棒縛」、能「恋重荷」	5月21日	1回	1日	590人
	【企画公演】寺社と能 おはなし、高野山の声明、能「高野物狂」	5月30日	1回	1日	590人
	【企画公演】明和改正本発刊250年記念 仕舞「藤ヶせ」、狂言「鬼ヶ宿」、能「梅彩色之伝」	7月23日	1回	1日	590人
	【企画公演】夏休み親子で楽しむ能の会 おはなし、能「土蜘蛛黒頭」	8月1日	1回	1日	590人

	【企画公演】働く貴方に贈る 対談、狂言「呼声」、能「善知鳥」	8月7日	1回	1日	590人
	【企画公演】夏休み親子で楽しむ狂言の会 おはなし、狂言「蝸牛」、狂言「六地藏」	8月22日	1回	1日	590人
	【企画公演】狂言と落語・講談 講談、落語、狂言「骨皮」	8月27日	1回	1日	590人
	【企画公演】新作再演の会 新作能「紅天女」	9月25日	1回	1日	590人
	【特別企画公演】古典の日記念 鏡に映るものは 一調「野守」、舞囃子「井筒」、狂言「抜殻」、能「松山鏡」	10月31日	1回	1日	590人
	【企画公演】平家と能 狂言「柑子」、平家琵琶「卒塔婆流」、能「俊寛」	11月27日	1回	1日	590人
	【企画公演】平家と能 狂言「清水座頭」、平家琵琶「竹生島詣」、能「経正古式」	11月28日	1回	1日	590人
	【特別公演】 仕舞、狂言「朝比奈」、能「木賊」	12月23日	1回	1日	590人
	【企画公演】松囃子-祝祷芸の様々- 菊池の松囃子、舞囃子「高砂」、狂言「松囃子」、狂言「鞍猿」	1月23日	1回	1日	590人
	【特別公演】 能「鱗形」、狂言「舟船」、能「唐船」	1月31日	1回	1日	590人
	【企画公演】復曲再演の会 復曲狂言「若菜」、復曲能「菊慈童 鶴山」	2月3日	1回	1日	590人
	【企画公演】素の魅力 おはなし、舞囃子「東方朔」、袴能「弱法師」	2月13日	1回	1日	590人
	【企画公演】蠟燭の灯りによる 狂言「鼻山伏」、能「砦」	2月19日	1回	1日	590人
	【特別公演】 おはなし、復曲狂言「吟三郎賀」、能「楊貴妃臺留」	2月24日	1回	1日	590人
	【特別企画公演】＜復興と文化特別編＞老女の祈り 毛越寺の延年「老女」、復曲能「名取ノ老女」	3月25・26日	2回	2日	1,180人
鑑賞 教室	解説、狂言「寝音曲」、能「船弁慶」	6月22日～26日	10回	5日	6,050人
能楽（計51公演）合計：定例公演20、普及公演10、企画公演20、鑑賞教室1			61回	56日	36,140人

6 組踊等沖縄伝統芸能（目標入場者数：17,753人）／26年度計画目標16,461人

区分	公演名	劇場	期間	回数	日数	目標 入場者数
定期 公演	組踊「二童敵討」	大劇場	4月25日	1回	1日	339人
	琉球舞踊「雑踊名作選」	〃	5月16日	1回	1日	371人
	組踊「手水の縁」	〃	5月23日	1回	1日	339人
	琉球舞踊「男性舞踊家の会」	〃	7月11日	1回	1日	464人
	組踊「孝行の巻」	〃	7月18日	1回	1日	339人
	沖縄芝居 怪談劇「十貫瀬の七つ墓」	〃	8月15日～16日	2回	2日	736人
	琉球舞踊「琉球舞踊特選会」	〃	9月12日	1回	1日	464人
	三線音楽「三線音楽」	〃	10月3日	1回	1日	374人
	組踊「久志の若按司」	〃	10月24日	1回	1日	339人
	琉球舞踊「創作舞踊の会」	〃	12月5日	1回	1日	402人
	民俗芸能「沖縄本島民俗芸能祭」	〃	12月13日	1回	1日	453人
	組踊「忠臣義勇」	〃	12月19日	1回	1日	339人
	琉球舞踊「新春琉舞名人選」	〃	1月9日～10日	2回	2日	804人

	琉球舞踊「琉球舞踊鑑賞会」	〃	2月13日	1回	1日	371人
	組踊「花売の縁」	〃	2月27日	1回	1日	339人
	沖縄芝居 歌劇「渡地物語」・歌劇「貞女と孝子」	〃	3月11日～13日	3回	3日	1,112人
	組踊「探義伝敵討」	〃	3月19日	1回	1日	339人
企画公演	太鼓の競演	〃	5月31日	1回	1日	339人
	沖縄芝居「いのちの簪」	〃	6月20日～21日	2回	2日	804人
	ゆらていく遊ば	〃	10月17日	1回	1日	396人
	アジア・太平洋地域の芸能「ジャワの宮廷ガムランと舞踊」	〃	11月1日	1回	1日	402人
	国立劇場寄席	〃	11月21日	1回	1日	433人
	新作組踊「初桜」	〃	1月23日	1回	1日	371人
	狂言	〃	2月6日～7日	2回	2日	990人
研究公演	与論と沖縄芸能	〃	6月28日	1回	1日	307人
普及公演	はじめての琉球舞踊	小劇場	4月11日	1回	1日	187人
	社会人のための組踊鑑賞教室「執心鐘入」	大劇場	6月13日	1回	1日	424人
	親子のための組踊鑑賞教室「女物狂」	〃	8月2日	1回	1日	424人
	沖縄芝居鑑賞教室	〃	9月17日～19日	3回	3日	1,293人
	組踊鑑賞教室「花売の縁」	〃	11月9日～13日	8回	5日	3,459人
組踊等沖縄伝統芸能（30公演）合計：定期公演17、企画公演7、研究公演1、普及公演5				45回	42日	17,753人

[別表 2] 現代舞台芸術の公演に関する計画

1 オペラ (目標入場者数 : 75,400 人) / 26 年度計画目標 76,332 人

公演名	劇場	期間	回数	日数	目標入場者数
「運命の力」	オペラ劇場	4月2日～14日	5回	5日	6,300人
「椿姫」(新制作)	〃	5月10日～26日	6回	6日	9,100人
「ばらの騎士」	〃	5月24日～6月4日	5回	5日	6,800人
「沈黙」	〃	6月27日～30日	4回	4日	5,200人
楽劇「ニーベルングの指環」序夜 「ラインの黄金」(新制作)	〃	10月1日～17日	6回	6日	8,000人
「トスカ」	〃	11月17日～29日	5回	5日	7,500人
「ファルスタッフ」	〃	12月3日～12日	4回	4日	5,800人
「魔笛」	〃	1月24日～30日	4回	4日	5,800人
「イエヌーファ」(新制作)	〃	2月28日～3月11日	5回	5日	6,600人
「サロメ」	〃	3月6日～15日	4回	4日	5,000人
高校生のためのオペラ鑑賞教室「蝶々夫人」	〃	7月10日～16日	6回	6日	9,300人
オペラ (11 公演) 合計			54回	54日	75,400人

2 バレエ (目標入場者数 : 47,400 人) / 26 年度計画目標 42,400 人

公演名	劇場	期間	回数	日数	目標入場者数
「こうもり」	オペラ劇場	4月21日～26日	5回	4日	5,800人
「白鳥の湖」	〃	6月10日～14日	5回	4日	7,600人
「ホフマン物語」(新制作)	〃	10月30日～11月3日	5回	5日	6,700人
「くるみ割り人形」	〃	12月19日～27日	8回	6日	12,100人
ニューイヤール・バレエ	〃	1月9日～10日	2回	2日	3,000人
「ラ・シルフィード」 / 「Men Y Men」(新制作)	〃	2月6日～11日	4回	4日	5,000人
こどものためのバレエ劇場「シンデレラ」	〃	7月22日～25日	8回	4日	7,200人
バレエ (7 公演) 合計			37回	29日	47,400人

3 現代舞踊 (目標入場者数 : 5,950 人) / 26 年度計画目標 4,900 人

公演名	劇場	期間	回数	日数	目標入場者数
森山開次「サーカス」	小劇場	6月20日～28日	8回	6日	2,000人
近松 DANCE 式題	〃	10月9日～18日	6回	6日	1,400人
DANCE to the Future 2016	中劇場	3月12日～13日	2回	2日	850人
平山素子「Hybrid -Rhythm & Dance」	〃	3月25日～27日	3回	3日	1,700人
現代舞踊 (4 公演) 合計			19回	17日	5,950人

4 演劇 (目標入場者数 : 56,900 人) / 26 年度計画目標 50,000 人

公演名	劇場	期間	回数	日数	目標入場者数
「ウィンズロウ・ボーイ」	小劇場	4月9日～26日	16回	16日	3,700人

JAPAN MEETS…—現代劇の系譜をひもとく—X 「海の夫人」	〃	5月13日～31日	18回	17日	4,200人
「東海道四谷怪談」	中劇場	6月10日～28日	18回	17日	13,000人
「かがみのかなたはたなかのなかに」	小劇場	7月6日～26日	26回	19日	7,000人
「パッション」(日本初演)	中劇場	10月16日～11月8日	23回	21日	15,200人
「桜の園」	小劇場	11月11日～29日	18回	17日	4,400人
「バグダッド動物園のベンガルタイガー」(日本初演)	〃	12月8日～27日	18回	18日	4,400人
鄭義信 三部作 Vol. 1 「焼肉ドラゴン」	〃	3月7日～27日	20回	19日	5,000人
演劇(8公演)合計			157回	144日	56,900人

[別表3] 主に青少年を対象とした公演に関する計画（再掲）

区分	公演名	劇場	期間	回数	日数	目標 入場者数
歌舞伎	6月歌舞伎鑑賞教室 解説「歌舞伎のみかた」、「壺坂霊験記」	本館大劇場	6月2日～24日	46回	23日	53,100人
〃	7月歌舞伎鑑賞教室 解説「歌舞伎のみかた」、「義経千本桜」	〃	7月3日～24日	44回	22日	61,400人
文楽	12月文楽鑑賞教室	本館小劇場	12月2日～14日	24回	13日	12,600人
〃	6月文楽鑑賞教室「五条橋」、解説「文楽へようこそ」、「曾根崎心中」	文楽劇場	6月5日～18日	28回	14日	18,300人
能楽	6月能楽鑑賞教室 解説、狂言「寝音曲」、能「船弁慶」	能楽堂	6月22日～26日	10回	5日	6,050人
組踊等	沖縄芝居鑑賞教室	国立劇場おきなわ 大劇場	9月17日～19日	3回	3日	1,293人
〃	組踊鑑賞教室「花売の縁」	〃	11月9日～13日	8回	5日	3,459人
伝統芸能（7公演）合計				163回	85日	156,202人
オペラ	高校生のためのオペラ鑑賞教室「蝶々夫人」	オペラ劇場	7月10日～16日	6回	6日	9,300人
バレエ	こどものためのバレエ劇場「シンデレラ」	〃	7月22日～25日	8回	4日	7,200人
現代 舞踊	森山開次「サーカス」	新国立劇場 小劇場	6月20日～28日	8回	6日	2,000人
演劇	「かがみのかなたはたなかのなかに」	〃	7月6日～26日	26回	19日	7,000人
現代舞台芸術（4公演）合計				48回	35日	25,500人

※ すべて別表1及び別表2の公演の中で実施するものである。

[別表4] 社会人や親子等を対象とした入門企画・公演に関する計画（再掲）

区分	公演名	劇場	期間	回数	日数
歌舞伎	6月歌舞伎鑑賞教室 「社会人のための歌舞伎鑑賞教室」	本館大劇場	6月12日	1回	1日
〃	6月歌舞伎鑑賞教室 「外国人のための歌舞伎鑑賞教室（仮）」	〃	6月19日	1回	1日
〃	7月歌舞伎鑑賞教室 「社会人のための歌舞伎鑑賞教室」	〃	7月10日・17日	2回	2日
〃	7月歌舞伎鑑賞教室 「親子で楽しむ歌舞伎教室」	〃	7月18日～24日	14回	7日
文楽	12月文楽鑑賞教室 「社会人のための文楽鑑賞教室」	本館小劇場	12月4日・7日・9 日・11日	4回	4日
〃	6月文楽鑑賞教室 「社会人のための文楽入門」	文楽劇場	6月8日・17日	2回	2日
〃	夏休み文楽特別公演（第一部親子劇場）	〃	7月18日～ 8月3日	17回	17日
舞踊・ 邦楽等	6月 第3回伝統芸能の魅力「声明を楽しむ」/ 「邦楽を楽しむ」	本館小劇場	6月6日	2回	1日
〃	6月 第4回伝統芸能の魅力「雅楽を楽しむ」/ 「日本舞踊を楽しむ」	〃	6月13日	2回	1日
大衆 芸能	【特別企画公演】親子で楽しむ演芸会	演芸場	7月25日	1回	1日
能楽	【企画公演】夏休み親子で楽しむ能の会	能楽堂	8月1日	1回	1日
〃	【企画公演】夏休み親子で楽しむ狂言の会	〃	8月22日	1回	1日
〃	【企画公演】働く貴方に贈る	〃	8月7日	1回	1日

組踊等	はじめての琉球舞踊	国立劇場おきなわ 小劇場	4月11日	1回	1日
〃	社会人のための組踊鑑賞教室「執心鐘入」	国立劇場おきなわ 大劇場	6月13日	1回	1日
〃	親子のための組踊鑑賞教室「女物狂」	〃	8月2日	1回	1日

※ すべて別表1及び別表2の公演の中で実施するものである。

[別表5] 国、地方公共団体、芸術団体、企業等との連携協力に関する計画

区分	公演名	劇場	期間	連携協力先等
受託	親子で楽しむ「ニッセイ親子文楽」	日生劇場	8月8日・9日 (4回予定)	公益財団法人ニッセイ文化振興財団
〃	沖縄県伝統芸能公演	国立劇場おきなわ 大劇場、小劇場	6月～3月 (15回予定)	公益財団法人沖縄県文化振興会
〃	国立劇場おきなわ連携事業	沖縄県内公立文化施設 (今帰仁村、他)	11月～3月	沖縄県、今帰仁村、他
〃	沖縄県文化観光戦略推進事業 (国立劇場おきなわ県外公演)	ウエスタ川越 茅ヶ崎市民文化会館	8月8日・9日 2月20日	沖縄県、ウエスタ川越、茅ヶ崎市民文化・スポーツ振興財団
共催	地域招聘公演 長崎県オペラ協会「いのち」	新国立劇場 中劇場	7月25日～26日 (2回)	長崎県、オペラ「いのち」実行委員会

[別表6] 全国各地の文化施設等における公演に関する計画

区分	公演名	劇場	期間(回数)	連携協力先等
共催	6月歌舞伎鑑賞教室静岡公演	静岡県コンベンション アーツセンター グラン シップ	6月26日 (2回)	財団法人静岡県文化財団／静岡 県、他
〃	7月歌舞伎鑑賞教室神奈川公演	神奈川県立 青少年センター	7月26日～27日 (4回)	かながわ伝統芸能祭実行委員 会
受託	第29回日本医学会総会2015 関西 会頭招宴 スーパー能「世阿弥」短縮上演	京都劇場	4月10日	日本医学会
〃	スーパー能「世阿弥」半田公演	半田市福祉文化会館	2月21日	半田市
共催	国立劇場おきなわ県外公演 (沖縄県文化観光戦略推進事業)	ウエスタ川越 茅ヶ崎市民文化会館	8月8日・9日 2月20日	沖縄県、ウエスタ川越、茅ヶ崎 市民文化・スポーツ振興財団
〃	高校生のためのオペラ鑑賞教室(関西公演) 「蝶々夫人」	尼崎市総合文化 センター	10月27日～28日 (2回)	尼崎市／(公財) 尼崎市総合 文化センター
受託	演劇「海の夫人」	兵庫県立 芸術文化センター	6月6日 (1回)	兵庫県／兵庫県立芸術文化セ ンター
〃	演劇「東海道四谷怪談」	兵庫県立 芸術文化センター	7月1日～2日 (3回)	兵庫県／兵庫県立芸術文化セ ンター
〃	バレエ「白鳥の湖」	茅ヶ崎市民文化会館	7月4日 (1回)	茅ヶ崎市／(公財) 茅ヶ崎市民 文化・スポーツ振興財団
〃	現代舞踊「サーカス」	兵庫県立 芸術文化センター	7月4日 (1回)	兵庫県／兵庫県立芸術文化セ ンター
〃	こどものためのバレエ劇場「シンデレラ」	出雲市民会館	9月13日 (1回)	出雲市、(公財) 出雲市芸術文 化振興財団
〃	〃	岡谷市民文化会館	9月21日 (1回)	岡谷市、(公財) おかや文化振 興事業団
〃	〃	フェスティバル ホール	9月23日 (1回)	(公財) 朝日新聞文化財団
〃	〃	びわ湖ホール	9月26日 (1回)	滋賀県／(公財) びわ湖ホー ル

〃	高校生のためのオペラ音楽セレクション	京都コンサートホール	10月22日 (1回)	京都市／(公財)京都市音楽 芸術文化振興財団
〃	演劇「パッション」	兵庫県立 芸術文化センター	未定	兵庫県／兵庫県立芸術文化セ ンター

[別表 7] 国際文化交流公演等に関する計画

公演等名称	実施場所	期間(回数)	連携協力先等
アジア・太平洋地域の芸能 「ジャワの宮廷ガムランと舞踊」	国立劇場おきなわ大劇場	11月1日 (1回)	文化庁

[別表 8] 展示に関する計画

(目標来場者数：186,020人) / 26年度計画目標 182,550人

展示名称	会場	期間	日数	目標 来場者数
企画展示「文楽入門」	伝統芸能情報館 資料展示室	4/1～5/25	55日	6,300人
企画展示「未定」		6/2～9/23	113日	16,450人
企画展示「未定」		10/3～1/27	112日	14,150人
企画展示「未定」		2/6～3/31	55日	7,000人
伝統芸能情報館 小計		4回	335日	43,900人
演芸資料展「寄席の四季－春から初夏－」	演芸場 資料展示室	4/1～7/20	91日	12,100人
演芸資料展「未定」		8/1～11/23	92日	12,100人
演芸資料展「未定」		12/1～3/21	82日	9,500人
演芸場資料展示室 小計		3回	265日	33,700人
収蔵資料展	能楽堂 資料展示室	4/11～6/7	50日	5,750人
入門展「能楽入門」		6/13～8/2	45日	4,500人
特別展「松山東雲神社の能面能装束」		9/25～12/12	69日	11,420人
企画展「近世大名家の能楽」		1/6～3/27	72日	9,000人
能楽堂資料展示室 小計		4回	236日	30,670人
企画展示「初代・二代目吉田玉男」	文楽劇場 資料展示室	4/4～5/17	44日	11,340人
常設展示「文楽入門」		6/5～8/23	79日	21,500人
企画展示「未定」		9/12～11/28	78日	16,150人
常設展示「文楽入門」		1/3～2/27	56日	15,860人
文楽劇場資料展示室 小計		4回	257日	64,850人
企画展「琉球舞踊」	国立劇場おきなわ 資料展示室	4/11～6/21	72日	3,096人
企画展「沖縄芝居」		7/11～9/20	72日	3,096人
企画展「組踊」		10/3～12/23	72日	3,096人
企画展「本土の芸能」		1/10～3/15	65日	2,712人
国立劇場おきなわ資料展示室 小計		4回	281日	12,000人
伝統芸能分野 合計		19回		185,120人
常設展「オペラハウスの感動」	舞台美術センター 資料館	通年	260日	900人
現代演劇ポスター展		通年		
企画展「シェイクスピア生誕450年記念展」		通年		
公演関係展示	新国立劇場内	随時	-	
情報センター閲覧室展示		随時	-	
舞台衣裳展示		通年	-	
公演記録写真展示		通年	-	

※ 伝統芸能情報館資料展示室の、4/1から開催する企画展示は、26年度から継続して開催。

※ 舞台美術センター資料館の、企画展「シェイクスピア生誕450年記念展」は、26年度から継続して開催。

※ 上記のほか、「文楽劇場資料展示」（仮称）を、公益財団法人文楽協会との共催により開催予定。（平成27年7月1日～13日、阪急百貨店うめだ本店）

[別表 9] 公開講座等に関する計画

(目標参加者数：7,430人) / 26年度計画目標 7,600人

講座等名称	会場	実施時期	回数	目標 来場者数
伝統芸能サロン	伝統芸能情報館レクチャー室	隔月実施	6回	570人
公演記録鑑賞会(本館)	〃	毎月実施	12回	1,140人
能楽鑑賞講座	能楽堂大講義室	毎月実施	12回	1,800人
能楽特別講座	〃	未定	1回	100人
公演記録鑑賞会(文楽劇場)	文楽劇場小ホール	毎月実施	12回	1,500人
伝統芸能講座(文楽劇場)	〃	未定	1回	60人
公演記録鑑賞会(国立劇場おきなわ)	国立劇場おきなわ小劇場	四半期毎	4回	600人
沖縄伝統芸能公開講座(国立劇場おきなわ)	国立劇場おきなわ 会議室・交流プラザ室	四半期毎	4回	160人
伝統芸能分野 合計			52回	5,930人
現代舞台芸術入門講座	舞台美術センター資料館	未定	1回	150人
DVD 現代舞台芸術鑑賞会	〃	毎月実施	12回	70人
マンスリー・プロジェクト (現代舞台芸術入門講座)	新国立劇場情報センター	毎月実施	13回	1,100人
DVD 現代舞台芸術鑑賞会	〃	毎月実施	12回	180人
現代舞台芸術分野 合計			38回	1,500人
総合計			90回	7,430人

別紙1 予算（年度計画の予算）

平成27年度（平成27年4月1日から平成28年3月31日まで）

（単位：百万円）

区 分	基金事業	公演事業	養成研修事業	調査研究事業	法人共通	合計
収 入						
運営費交付金	35	6,649	798	1,157	1,142	9,781
文化芸術振興費補助金	3,732					3,732
施設整備費補助金		745			31	776
助成事業収入	1,166					1,166
うち基金運用収入	1,146					1,146
うち寄附金収入	1					1
うちその他の収入	19					19
国立劇場事業収入		2,776	37	10		2,823
公演事業収入		2,776				2,776
うち公演事業収入		2,764				2,764
うち雑収入		12				12
研修事業収入			37			37
調査研究事業収入				10		10
国立劇場おきなわ事業収入		2				2
新国立劇場事業収入		232				232
受託事業収入		7				7
一般管理収入					22	22
計	4,933	10,411	835	1,167	1,195	18,541
支 出						
文化芸術振興費	3,732					3,732
施設整備費		745			31	776
助成事業費	1,201					1,201
うち人件費	162					162
うち物件費	1,039					1,039
国立劇場事業費		5,609	427	803		6,839
公演事業費		5,609				5,609
うち人件費		1,493				1,493
うち物件費		4,116				4,116
研修事業費			427			427
うち人件費			122			122
うち物件費			305			305
調査研究事業費				803		803
うち人件費				216		216
うち物件費				587		587
国立劇場おきなわ事業費		510	64	83		657
新国立劇場事業費		3,540	344	281		4,165
受託事業費		7				7
一般管理費					1,164	1,164
うち人件費					911	911
うち物件費					253	253
計	4,933	10,411	835	1,167	1,195	18,541

別紙2 収支計画

平成27年度（平成27年4月1日から平成28年3月31日まで）

（単位：百万円）

区 分	基金事業	公演事業	養成研修事業	調査研究事業	法人共通	合計
費用の部						
基金助成事業費	4,933					4,933
うち人件費	162					162
うち物件費	4,771					4,771
うち文化芸術振興費	3,732					3,732
うち芸術文化振興基金助成費等	1,039					1,039
国立劇場公演等事業費		5,831	428	766		7,025
公演事業費		5,332				5,332
うち人件費		1,493				1,493
うち物件費		3,839				3,839
研修事業費			364			364
うち人件費			122			122
うち物件費			242			242
調査研究事業費				683		683
うち人件費				216		216
うち物件費				467		467
国立劇場おきなわ公演等事業費		492	64	83		639
受託事業費		7				7
新国立劇場公演等事業費		3,233	344	281		3,858
一般管理費					1,129	1,129
うち人件費					911	911
うち物件費					218	218
減価償却費		899	10	35	48	992
計	4,933	9,963	782	1,082	1,177	17,937
収益の部						
基金助成事業収入	4,933					4,933
うち運営費交付金収益	35					35
うち文化芸術振興費補助金収益	3,732					3,732
うち基金運用収入	1,146					1,146
うち寄附金収入	1					1
うちその他の収入	19					19
国立劇場公演等事業収入		5,831	428	766		7,025
公演事業収入		5,332				5,332
うち運営費交付金収益		2,556				2,556
うち雑収入		12				12
うち公演事業収入		2,764				2,764
研修事業収入			364			364
うち運営費交付金収益			327			327
うち雑収入			37			37
調査研究事業収入				683		683
うち運営費交付金収益				673		673
うち雑収入				10		10

国立劇場おきなわ公演等事業収入		492	64	83		639
うち運営費交付金収益		490	64	83		637
うち国立劇場おきなわ事業収入		2				2
受託事業収入		7				7
新国立劇場公演等事業収入		3,233	344	281		3,858
うち運営費交付金収益		3,001	344	281		3,626
うち新国立劇場事業収入		232				232
一般管理収入					1,129	1,129
うち運営費交付金収益					1,107	1,107
うち雑収入					22	22
資産見返運営費交付金戻入		899	10	35	48	992
計	4,933	9,963	782	1,082	1,177	17,937
純利益						0
積立金取崩額						0
総利益						0

別紙3 資金計画

平成27年度（平成27年4月1日から平成28年3月31日まで）

（単位：百万円）

区 分	基金事業	公演事業	養成研修事業	調査研究事業	法人共通	合計
資金支出	8,518	10,412	835	1,167	3,756	24,688
業務活動による支出	5,433	9,064	772	1,047	1,129	17,445
投資活動による支出		1,348	63	120	66	1,597
翌年度への繰越金	3,085				2,561	5,646
資金収入	8,518	10,412	835	1,167	3,756	24,688
業務活動による収入	5,433	9,667	835	1,167	1,164	18,266
運営費交付金による収入	35	6,649	798	1,157	1,142	9,781
文化芸術振興費補助金による収入	3,732					3,732
公演事業による収入		2,999				2,999
公演受託事業による収入		7				7
基金運用による収入	1,146					1,146
その他の収入	520	12	37	10	22	601
投資活動による収入		745			31	776
施設整備費補助金による収入		745			31	776
その他の収入						0
前年度よりの繰越金	3,085				2,561	5,646

別紙4 施設・設備に関する計画

平成27年度（平成27年4月1日から平成28年3月31日まで）

（単位：百万円）

区 分	予定額	財源
国立劇場等大規模改修工事等	31	施設整備費補助金
国立劇場音響調整卓設備整備	230	施設整備費補助金
国立文楽劇場客席椅子及びカーペット改修工事	139	施設整備費補助金
新国立劇場キューランプ設備整備工事	147	施設整備費補助金
新国立劇場映像モニター設備整備工事	229	施設整備費補助金